



白神山地に湧く天然水と世界自然遺産の麓という環境に魅力を感じ、
藤里町に研究所を設立。研究と農業、そして醸造。幅広い事業を展開。



株式会社アルビオン 白神研究所

世界自然遺産・白神山地のある藤里町。ここに日本を代表する高級化粧品メーカー・アルビオンの研究所がある。同社は希少性とブランド維持のために、化粧品専門店と百貨店のみでの販売に特化するなど、独自の戦略を掲げているという。株式会社アルビオン 白神研究所の所長である小平努さんに、アルビオンが藤里町に研究所を設けた理由や、藤里町で手掛ける多様な活動についてお話を伺った。

所長 小平 努

〒018-3205
山本郡藤里町粕毛字清水岱5-9
TEL 0185-71-4181
FAX 0185-79-1030
<https://www.shirakami.albion.co.jp/>



HP



世界的な高級化粧品メーカーの商品開発を支える研究所

株式会社アルビオンは化粧品の原材料研究から自社で行っており、国内外に4つの研究施設がある。そのうちのひとつが藤里町にある「白神研究所」だ。

所長の小平さんが研究施設を藤里町に設置した理由をこう語る。

「世界自然遺産である白神山地は、何千年もの間人の手が入らず、生態系が昔のまま保全されています。化粧品の製造には水が非常に重要ですが、白神山地の水は硬度が低く、超軟水。ミネラルに含まれる金属イオンは水のなめらかさを奪い、化粧品製造においても邪魔になってしまいます。これは化粧品を作る上で除去している要素ですが、できるだけ生きた水を使いたく、超軟水の白神山地の水に魅力を感じました。また、この水が藤里町との出会いのきっかけでしたが、白神山地という世界自然遺産の麓の自然風土も、化粧品の原材料となる植物にとっても恵まれた環境であると考え、平成22年、研究所を新設しました」。



農園で育てられた植物は、自社での使用のほか、フランスへも輸出されている。有機JAS認証を取得済みだ。

植物の効果効能を最大限引き出す確かな原材料開発のための農業も

自社で化粧品の原材料を作るのは、他社との差別化を図り、より付加価値の高い製品を生み出すためだ。また、植物は有機栽培で育てているが、環境への配慮だけでなく、優秀な株の選択という目的もあるという。有機栽培にする



アルビオン白神ファームで育てられたヨモギの刈り取り作業。

ことで環境に弱い個体は淘汰され、強いものだけが生き残るからだ。平成30年には有機JAS認証を取得し、その農法の信頼性も証明されている。

「白神山地の麓という素晴らしい環境の中、自社で原材料を研究・栽培していることを県内外の皆さんに広く知っていただきたいと思い、SNSやラジオ番組などでも積極的に発信しています。研究所には県内出身者も多く、地域の方々にも広く深くご協力いただいていることもPRしています。」と話す小平所長。土地の豊かさを活かし、地域とのつながりを大切にしながら日々取り組んでいる。

町の特産品・ワインの再建に尽力サステナブルな取組が広がる

同社はワイナリーを開設し、ワインづくりにも取り組んでいる。化粧品の原材料となるブドウ「ヤマ・ソービニオン」を有用植物として活用する研究の開始に併せ、地元で担い手が少なくなっ



収穫された植物を洗浄し、乾燥。施設内はハーブの香りが漂う。

きたブドウ畑も引継ぎ、同社で栽培している。

「化粧品にはブドウの種を使い、果汁をワインとして活用しています。結果として無駄のないサステナブルな取組になりました。ワインは町から委託を受けて特産品である『白神山地ワイン』を醸造している他、一部自社のオリジナル商品も作っています」。

この研究所でこれまで原材料開発に活用した有用植物は、シャクヤク、ヤマヨモギなど全部で12種類。

「化粧品の原材料開発は、化粧品としての有用性だけでなく安全性などの確認もしなくてはならないハードルが高い挑戦です。ですが、今後もこの自然豊かな地から当社のブランドを一層高めるような新たな商品開発を進めたいと考えています。さらに新たなチャレンジとして、バイオマスとなる植物の栽培や、植物の残渣を堆肥化して畑に戻す環境再生型農業にも取り組んでいます。」と語ってくれた。



アルビオンのいくつかの商品で、白神研究所で栽培されたブドウやシャクヤクのエキスが使用されている。